

公益社団法人
食品容器環境美化協会

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
Tel. 03-5439-5121 Fax. 03-5476-2883

ホームページ
<https://www.kankyobika.or.jp>

食環協 検索

Facebook
＜まち美化アダプト・プログラム（食環協）＞
<https://www.facebook.com/adoptprogram>



構成する飲料メーカー6団体

コカ・コーラ協会

日本コカ・コーラ社と全国のコカ・コーラボトリング社からなる任意団体
〒106-0032 東京都港区六本木6-2-31 Tel. 03-5410-4521

一般社団法人 全国清涼飲料連合会

清涼飲料メーカーなどからなる一般社団法人
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-9-2 Tel. 03-6260-9260
ホームページ: <http://www.j-sda.or.jp/>

一般社団法人 全国トマト工業会

トマト加工製品メーカーなどからなる一般社団法人
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-18 Tel. 03-3639-9666
ホームページ: <http://www.japan-tomato.or.jp/>

一般社団法人 日本果汁協会

果汁飲料メーカーなどからなる一般社団法人
〒105-0014 東京都港区芝3-3-14 Tel. 03-6275-1761
ホームページ: <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/MyPage/menu0.html>

日本コーヒー飲料協会

コーヒー飲料メーカーなどからなる任意団体
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-9-2 Tel. 03-6260-9257

ビール酒造組合

アサヒ、麒麟、サッポロ、サントリー、オリオン（沖縄）のビール5社による特別認可法人
〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-7 Tel. 03-3561-8386
ホームページ: <http://www.brewers.or.jp/>



こんにちは！ 美しい日本 食環協 Guide



2020.4

おなじみのマークで ポイ捨て防止を呼びかけています。

まちの自販機や容器回収ボックスなど、
あちこちでおなじみの「のんだあとはリサイクル」という緑のマークは、
食品容器環境美化協会（食環協）から皆さまへのメッセージとして1981年に採用したもので、
「統一美化マーク」といいます。

以降、新聞広告、TV・CM、自動販売機、立て看板、のぼり、横断幕など
あらゆる機会において活用し、ポイ捨て防止・まち美化を呼びかけ続けています。

統一美化マーク
です



「まち美化 アダプト・プログラム」
の普及・推進

環境教育の支援

環境美化の推進

市民・市民団体
自治体・学校
企業

ポイ捨て防止啓発キャンペーン

調査・研究・情報発信

食環協は、飲料メーカー6団体が集まり、「環境美化」をすすめるため さまざまなPR・支援活動を展開しています。

1970年代初めに社会問題化した空き缶の散乱問題に対処するため、1973年に「食品容器環境美化協議会」を設立しました。
1982年には公益法人「食品容器環境美化協会」を設立し、事業の実施体制の整備を図りました。
その後、ポスターの配布、作文コンクールの実施、シンポジウムの開催などその時代時代に対応した事業を実施。
1998年からはアダプト・プログラム活動の普及を、2000年からは環境美化教育についての学校表彰を、2012年にはアダプト・プログラム活動への助成事業を始めるなど、その事業を充実させてきています。
また、公益法人制度の改正にともない2011年には「公益社団法人」となり、その活動は公益性があると認定されています。

設立目的

協会は飲料容器（缶、ビン、ペットボトル）の散乱防止を図り、環境美化に努めることを目的としています。

事業

協会は設立目的を達成するために、以下のことを行うこととしています。

1. 環境美化に関する啓発普及および助成事業
2. 環境美化に関する調査研究事業
3. 環境美化に関する資料、情報の収集および分析事業
4. 環境美化に関する公共団体との連携・協力および要請

構成団体（飲料メーカー6団体）

一般社団法人 全国清涼飲料連合会
一般社団法人 全国トマト工業会
一般社団法人 日本果汁協会
日本コーヒー飲料協会
コカ・コーラ協会
ビール酒造組合

全国ネットワーク

〔事業の推進役〕
全国42の
「地方連絡会議」



自治体と市民を結び付け、 公共スペースの清掃・美化を推進 (アダプト・プログラム)

アダプト(Adopt)は英語で「養子縁組をする」という意味。

「アダプト・プログラム」とは、一定区画の道路や公園、駅前通りといった公共スペースを養子に見立て、地元の市民や企業・団体が、わが子のように愛情を持って面倒をみる(=清掃美化を行う)、行政がそれを支援するというものです。

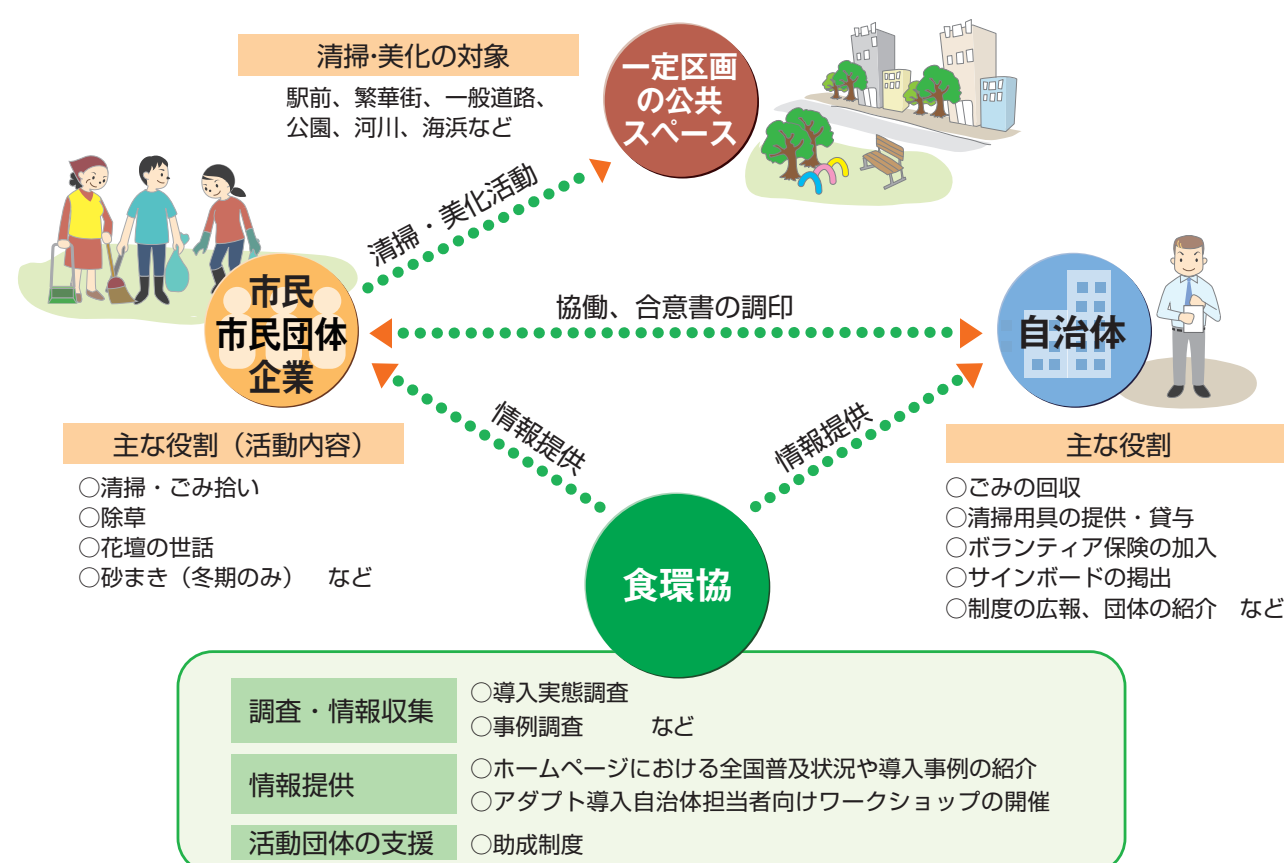
アメリカで1985年に初めて導入され、日本でスタートしたのは1998年のこと。以来急速に普及し、2020年4月末現在で、導入自治体数は420を超え全国約580のプログラムが稼働しています。

また、参加団体数は47,000団体以上、約210万人の方がこのアダプト・プログラムに参加し、地域の清掃美化活動を行っています。

食環協は、アダプト・プログラムの情報センターとして、このまち美化手法「アダプト・プログラム」を全国に紹介し、普及に努めています。

特徴

- 市民と行政の協働で行われる地域密着型の清掃活動です。
- イベント的な清掃活動ではなく、定期的・継続的に清掃活動を行います。
- アダプト制度は都道府県／市町村ごとに導入されています。



アダプト・プログラムの導入効果

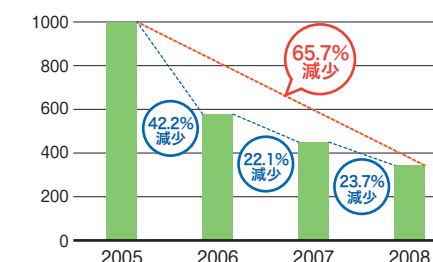
1. まち美化効果、ポイ捨て防止効果

拾い続けることで散乱ごみの量自体が減るほか、きれいな場所には捨てづらいこと、アダプト活動を経験した人々はポイ捨てしなくなる、などのことから、アダプト・プログラムを導入すると散乱ごみが減少します。

2. 副次的な効果

- 地域の連携がすすむ
 - 高齢者や障害者の活躍の場
 - 環境保全につながる
- などが挙げられます。

導入効果実態調査(麻布大学・アダプト活動成果)
～平均散乱個数の推移(2005年は「4期＝2ヵ月」の平均)～



麻布大学・相模原市・食環協の3者協働実施
実施内容: 月2回清掃+調査活動
清掃範囲: 矢部駅～麻布大学 (のべ475m)

アダプト情報センターとしての食環協

食環協はアダプト・プログラム情報センターとして、協会のホームページを中心に、制度紹介にとどまらず、アダプト制度運用・活用のご参考になるよう、アダプト・プログラム実施上の課題・悩みへの対応方法や解決のヒント、ユニークな取り組み、成功事例など、幅広い情報の収集、提供に取り組んでいます。

情報収集

- 新規導入自治体の調査
- 導入自治体や参加団体を対象にしたアンケートの実施および統計結果の報告
- 導入自治体や参加団体への訪問取材
- 導入自治体ヒアリング など

情報発信

- ホームページ、Facebookを活用したアダプト・プログラムの紹介
- 環境イベントへの参画・出展
各地で開催される環境イベントに出展し、自治体や地連と連携して、まち美化アダプト・プログラムをPRしています。
- アダプト・プログラム教室の開催や講演
まち美化アダプト・プログラムについての関心をお持ちの方々、もっと知りたい方々のために「アダプト・プログラム教室」を開設しております。
- パンフレットやDVDの提供
自治体向け・市民向け・中高生向けのパンフレットを無償で提供しております。パンフレットをご希望の方は食環協までご連絡ください。必要部数をお送りいたします。

アダプト・プログラム活動団体への助成

アダプト活動を始めようとする団体、アダプト活動をさらに充実・拡大しようとする団体を対象に清掃活動やポイ捨て防止活動に必要な経費について助成を行います。この助成は、アダプト・プログラム活動の一層の奨励を行うことを通じて、その普及を図ることを狙ったものです。

助成を行った団体については、ホームページなどで紹介をしており、団体自体の活性化に加え、広くアダプト活動の紹介に寄与していただいております。



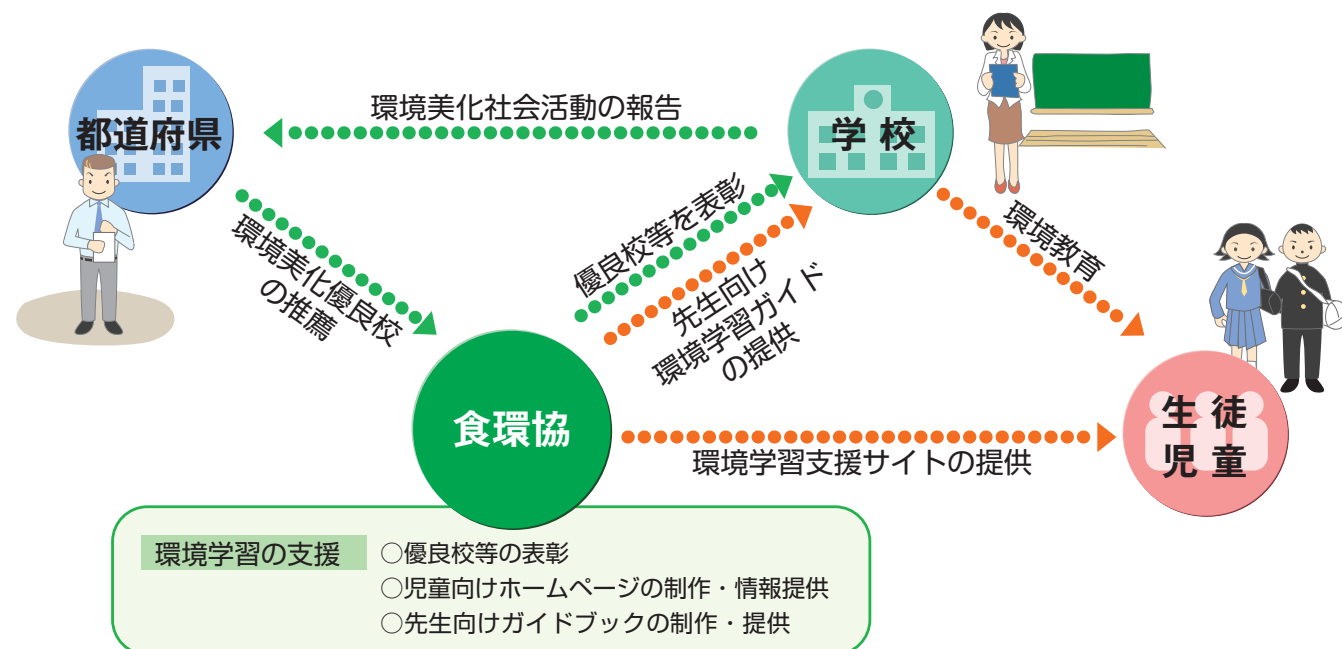
ぜひ、webを
ご覧ください

アダプト・プログラムのさまざまな情報を掲載し、みなさんに役立つ情報を随時更新しています。

- ホームページ <https://www.kankyobika.or.jp> 「食環協」で検索してください。
- まち美化アダプト・プログラムFacebook <https://www.facebook.com/adoptprogram>

美化の心を次の世代に引き継いでいくため 学校での環境教育を支援

食環協では、まち美化を長期的な視点で進めていくために、
これからの社会を担う子どもたちへの環境学習支援を積極的に行っています。



環境美化教育の優良校を表彰

学校での環境美化教育を応援していくため、毎年、環境美化の教育と実践に熱心に取り組んでいる全国の小・中学校を表彰しています。

対象 独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小・中学生の団体。

審査 全国の都道府県から、適格な優良校を推薦していただき、審査委員会で審査します。

表彰 最優秀校として文部科学大臣賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、協会会長賞を授与。賞状と環境整備助成金（図書カード等）を贈呈します。そのほか、優秀校、優良校等を表彰。



表彰式



優良校表彰

児童向け環境学習支援サイトの制作・提供

児童の環境学習を支援するため、ホームページに環境学習支援サイト「まち美化キッズ」を開設し、まち美化を中心とした学習プログラムの紹介ならびに関連資料を提供しています。

教育現場に即したツールを意識し、豊富な指導経験を持つ教師の意見を取り入れました。
例えば、「知識詰め込み型」ではなく、「なぜまちをきれいにするの?」「どうしてカンやびんを捨ててはいけないの?」ということを子どもたちに考えてもらう「問題提起型」にするなど、効率よく学習できる要素を盛り込んでいます。

総合学習の他、社会や理科など教科横断的に活用できるよう「調べ学習」コーナーを設けて、様々な授業展開が可能となるように努めました。



先生向けガイドの制作・提供

2002年度より導入された「総合的な学習の時間」のための、小・中学校の教師向け環境学習ガイド「資源になる! ごみから考える環境問題の学習ガイドブック」を制作し、ホームページで提供しています。

環境教育を実施する際のガイドブックとして、身近な環境問題である「散乱ごみ」から考える「まち美化」と「リサイクル」を中心テーマとし、授業や実習を組み立てるポイントやテーマ、環境関連の情報・資料などを紹介しています。

制作にあたっては、学識経験者や小・中学校の先生方などをメンバーとする研究会で検討を行い、また、40年にわたってまち美化活動を推進してきた食環協の経験と情報の蓄積を生かしながら、実践的な「現場で役に立つ」ものとするよう努めました。

2002年6月に第1版を制作し、2011年3月に全面改訂して配布し、以降、このガイドを使われた先生方のご意見などを反映しながら、内容のさらなる充実を図っています。



ぜひ、webを
ご覧ください

環境教育支援について、詳しくはホームページでご紹介しています。
■ 食環協ホームページ <https://www.kankyobika.or.jp> 「食環協」で検索してください。

「統一美化マーク」を掲げ、さまざまなメディアを通じて散乱防止を啓発

食環協は、「ポイ捨て防止」を呼びかけて約45年。

JR車内・駅・海岸・リゾート地へのポスター掲出やラジオ・キャンペーン、街頭・観光地での呼びかけキャンペーンなど、地道に、継続的に、目的に応じたさまざまな方法で呼びかけを続けてきました。

1981年に「統一美化マーク」を採用し、以降は、食環協から消費者の皆さまへのメッセージとして、新聞・テレビ広告や自販機、立て看板、のぼり、横断幕などで、食環協および会員各社が機会あるごとに掲出してきました。

環境関連のイベントへの参加



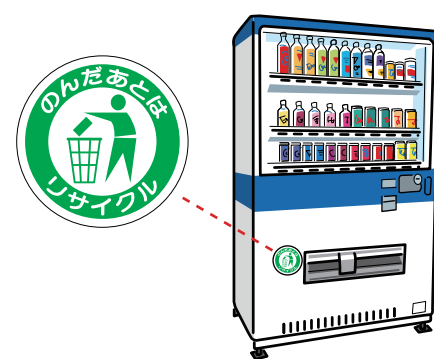
地方自治体と連携し地域の環境美化をPR



散乱防止啓発ポスター（制作・配布）



自動販売機へのステッカー貼付



統一美化マークの変遷



米国ビール協会(USBA)が
デザインした「ピッチ・イン・
マーク」がルーツ



1981年



1991年



1997年～



1997年～

各地域での食環協事業の推進役

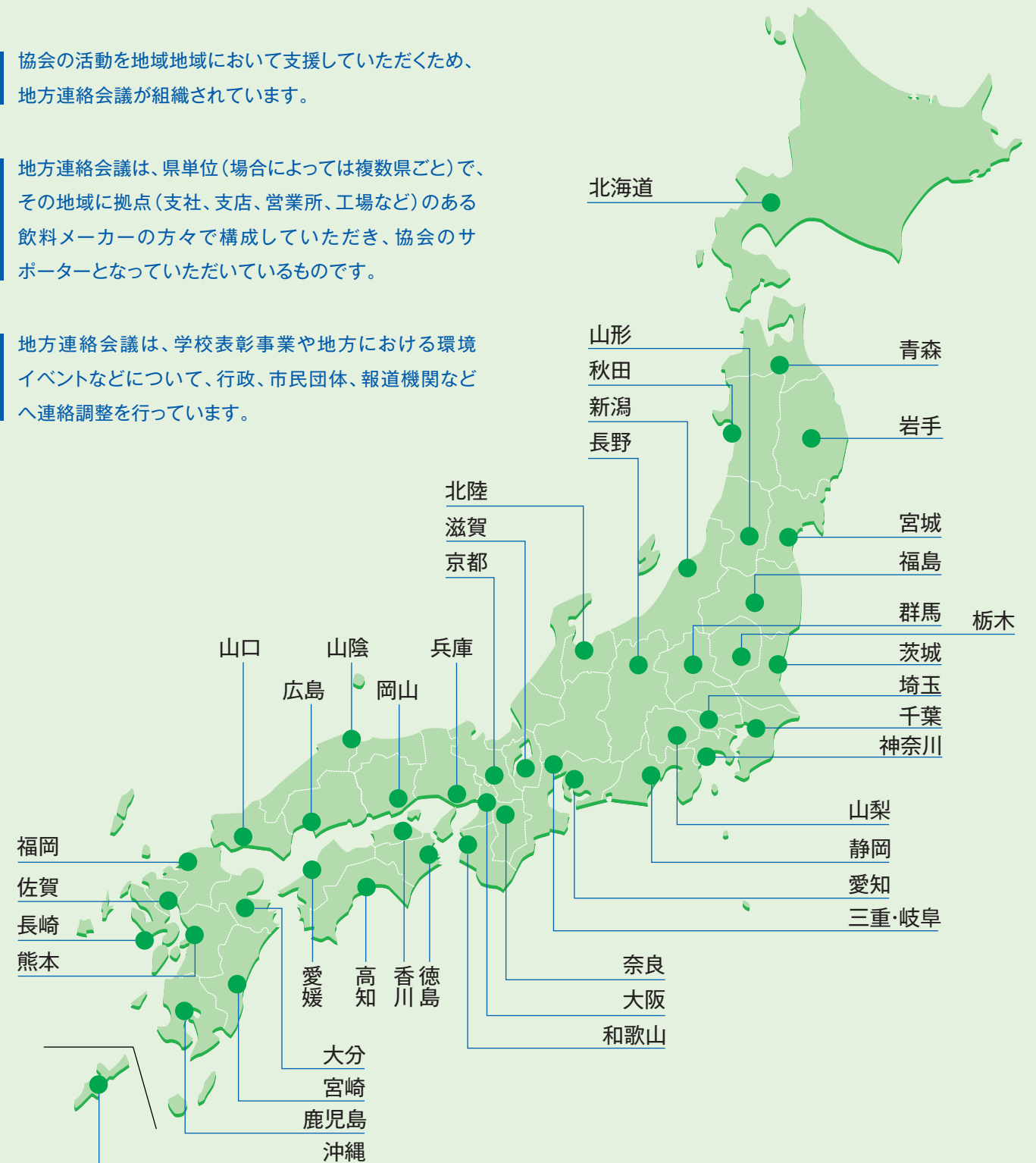
全国をカバーする食環協の拠点網 「地方連絡会議」が地域に密着して活動

2020年現在、全国各地で42の「地方連絡会議」が活動しています。

協会の活動を地域地域において支援していただくため、
地方連絡会議が組織されています。

地方連絡会議は、県単位（場合によっては複数県ごと）で、その地域に拠点（支社、支店、営業所、工場など）のある飲料メーカーの方々で構成していただき、協会のサポーターとなっていいただいているものです。

地方連絡会議は、学校表彰事業や地方における環境イベントなどについて、行政、市民団体、報道機関などへ連絡調整を行っています。

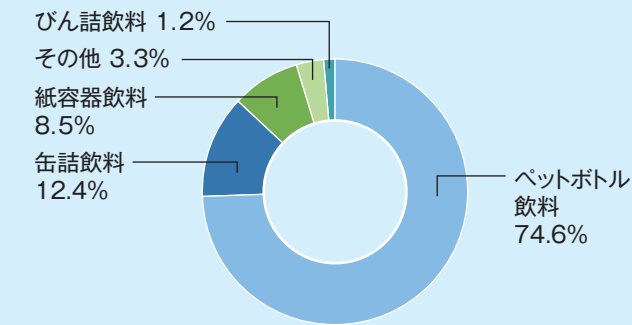


飲料容器のリサイクル

清涼飲料やビールなどの飲料容器には、スチール缶、アルミ缶、ガラスびん、ペットボトル、紙パックなどがあり、それぞれの特長を生かして利用されています。これらは、容器包装リサイクル法*で市町村による分別収集の対象とされており、消費者の皆さまが正しく分別して排出することで、大切な資源として生まれ変わります。缶は長いリサイクルの歴史があり、リサイクル率はいずれも90%を超すまでになっています。また、近年7割近くを占めているPETボトルも、1997年より容器包装リサイクル法による本格的なリサイクルの取り組みがスタートし、リサイクル率が急速に上昇しています。

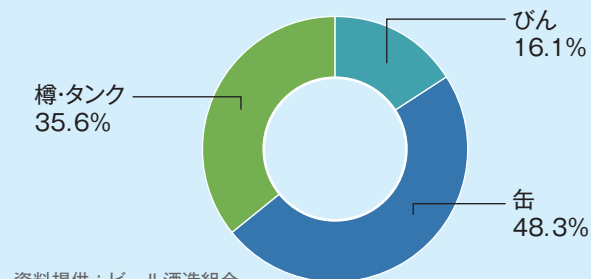
*正式名称は「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」

清涼飲料の容器別構成比 (2018年 生産量ベース)



資料提供：(一社)全国清涼飲料連合会

ビールの容器別構成比 (2018年1-12月 容量ベース)



資料提供：ビール酒造組合
※缶には小型樽を含む

各容器のリサイクル率

ペットボトル 84.6% (2018年度)

主な用途：卵パック、ペットボトル、自動車・鉄道の内装材など

出典：PETボトルリサイクル推進協議会

スチール缶 92.0% (2018年度)

主な用途：スチール缶、自動車などの材料、建設資材など

出典：スチール缶リサイクル協会

アルミ缶 93.6% (2018年度)

主な用途：アルミ缶、自動車部品など

出典：アルミ缶リサイクル協会

ガラスびん 68.9% (2018年度)

主な用途：ガラスびん、カラー舗装、住宅用断熱材など

出典：ガラスびん3R促進協議会

容器包装リサイクル法

消費者・市町村・事業者がそれぞれ役割分担して、資源を有効活用するための法律です。

容器包装リサイクル法とは、容器包装廃棄物のリサイクル制度をつくることにより、ごみを減らし、資源を有効に利用するための法律です。1997年4月に部分施行し、2000年4月からは完全施行されています。家庭ごみのうち、「容器」と「包装」が容積比で約60%を占めています。これらは比較的シンプルな材質でできているため、きちんと分別収集さえすれば再生利用しやすいものなのです。

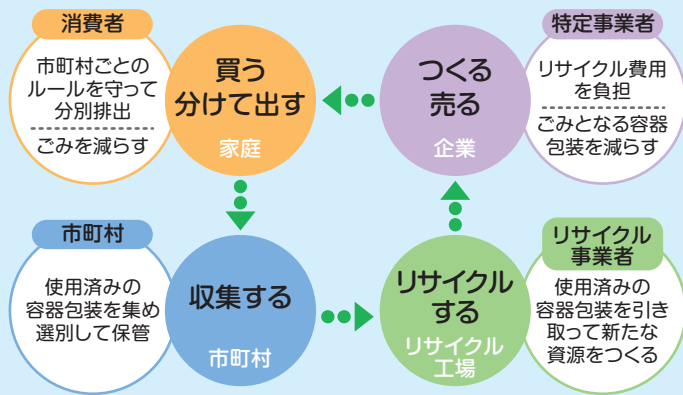
容器包装リサイクル法が対象としている「容器」「包装」

商品を入れたり、包んだりしているもので、中身を出したり使ったりすると不要になるものです。

飲料容器に関する取り組み

薄く、軽く、分別しやすくする企業の取り組みが進んでいます。

- 容器の軽量化
- はがしやすいラベルの開発
- 段ボールの軽量化 など



出典：(公財)日本容器包装リサイクル協会

食環協のあゆみ

'70

- 1973年 飲料6団体が自主的に「食品容器環境美化協議会」を設立。観光地合同美化キャンペーン開始。
- 1974年 あき缶散乱実態調査を実施。以降随時、飲料容器散乱実態の調査。
- 1975年 「こんにちは! 美しい日本・作文コンクール」開始。[~1989年]



'80

- 1981年 「統一美化マーク」を採用。
- 1982年 飲料8団体を会員とする「社団法人食品容器環境美化協会」設立。
- 1989年 環境美化実践優良校の表彰を開始。[~1999年]



'90

- 1990年 海岸などリゾート地向けにポイ捨て防止ポスター配布開始。
- 1991年 環境美化実践優良市民団体の表彰を開始。[~2010年]
- 1995年 地方連絡会議、全国道府県に拡大。
- 1998年 JR車内広告。アダプト・プログラムを全国自治体へ提案。
- 1999年 食環協ホームページ開設。アダプト・プログラム研究会の開催、アダプト・プログラム紹介ビデオ(理論編)制作。



'00

- 2000年 「まち美化・リサイクル学習ガイド」作成。ポイ捨て防止ビルボード看板掲出。環境美化教育優良校等の表彰(新事業)を開始。散乱実態調査(定点観測)。アダプト・プログラム紹介ビデオ(実践編)制作。
- 2001年 「まち美化・リサイクル学習ガイド」を全国的に教育現場で活用。アダプト・プログラム全国で急増。散乱防止バス車体広告。
- 2004年 児童向け環境学習サイト「まち美化キッズ」開設。
- 2008年 アダプト・プログラム研究会(第二次)の発足。[~2011年]



'10

- 2010年 環境美化教育優良校等表彰第10回の記念として「特別賞」を実施。
- 2011年 「公益社団法人食品容器環境美化協会」として公益認定。児童向け環境学習サイト「まち美化キッズ」リニューアル。
- 2012年 アダプト・プログラム助成制度開始。Facebookページ開設。
- 2018年 アダプト・プログラム助成制度、清掃グッズコース新設。
- 2019年 環境美化教育優良校等表彰事業が第20回を迎える。日本財団の支援のもと、「アダプト特別助成事業“CHANGE FOR THE BLUE”~海と日本プロジェクト~」を実施。政府の「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」において、対策の一つとしてアダプト・プログラムが取り上げられる。

